



金目川水系流域ネットワーク

世話人会

せせらぎ通信



誉！ 社会ボランティア賞 受賞しました！

金目川水系流域ネットワーク

代表 柳川二郎

2023年11月8日(水)

公益財団法人ソロプチミスト日本財団

から東京国際フォーラムにて

社会ボランティア賞を受賞しました。

公益財団法人ソロプチミスト日本財団は、ソロプチミスト精神に則り、さまざまな奉仕活動に対する援助や協力を行うことにより、より豊かな生活を実現し、国際相互理解の促進に寄与することを目的に、顕彰事業や援助事業などを実施しています。公益財団法人として確固たる基盤の上に公益事業を進めています。

目的と事業

- (1) 女性の人権の尊重並びに地位向上を目的とする活動への顕彰及び支援
- (2) より良い社会の形成と発展を推進するための活動や不当な差別及び偏見を抑制する活動に対する顕彰及び支援
- (3) 男女共同参画社会の推進活動に対する顕彰及び支援
- (4) 児童及び青少年の健全育成活動に対する顕彰及び支援
- (5) 自然環境保護活動に対する顕彰及び支援
- (6) 開発途上国等への国際協力活動に対する顕彰及び支援活動

(7) 人々の心身の健全な発達に寄与し又は、豊かな人間性を涵養することを目的とする活動に対する顕彰及び支援

「定款より」

誉！高い喜びです。

私たちの長年にわたっての積み上げた努力の評価を、前文内容に照らしての社会ボランティア賞の受賞です。

真夏の水温調査から 見えてきたこと

西岡 哲

河川水温・水質調査

金目川水系流域ネットワークでは、私たちが住んでいる金目川流域をよく知るための活動のひとつとして、2005年の8月から毎年68か所の橋を調査地点として流域全体の真夏の河川水温と気温の一斉調査を実施してきました。

金目川水系全域の河川水温と気温を同時に測ることで、金目川の温度環境を俯瞰することが出来ます。

調査地点の水温の一例として、2022年の水温調査結果を示しました。

河川水温は流量や前口までの降雨などの気象条件にもよりますが、上流側で低く下流に行くにしたがって高くなる傾向が見られます。なかには上流の水温より低いところがあります。

これは地下水の湧水や周辺環境の違

いによるものと思われます。上流で河川水温が低いのは、標高の高さと降水した冷たい雨の水温を反映していることによるものと思われます。

水質についてもバックテストにより2015年6月から54地点において、毎年河川水のCODを一斉調査して水質の変化を調べてまいります。

この水質調査は、全国水環境マップ実行委員会が進めている身近な水環境の全国一斉調査の活動に協力して行っているものです。調査結果については、毎年調査した全国の河川の水質マップが公開されています。

<https://www.japan-mizumap.org/003main/007outline/index.htm>



2022年8月の金目川水系の河川水温 (佐藤道夫氏作成)

一年間のたった一日だけのデータだけでは、金目川流域を形成している空間の一瞬の現象を見たものに過ぎません。

しかし長期間による調査から、どのように水温や水質が変化してきているのかその兆候をとらえることができ、なぜ水温が上がってきているのか、水質がきれいになってきたのは何故なのかなど、私たちの生活をもとに考える材料を与えてくれます。

共同調査をしました神奈川環境センターの報告によると、20年前まで汚濁が著しかった金目川は、下水道の普及などで水質改善が進み、近年はアユの遡上が復活していましたが、平成17(2005)年は遡上が減少したため夏に調査した結果、最高水温が28度を超える水域もあり、アユが生存しにくいレベルに近づきつつあることがわかったと報告しています。一斉調査の結果は、センターの報告を裏付けるものとなっています。

水温・水質の情報は、金目川の環境を形成している要因の一部にすぎません。いろいろな角度から流域を見て、総合的に解釈していくことが大事です。自然の一部を調査し切り出して、これが金目川の自然ですというのでは、群象を撫でるたこえのように、自然の本質に迫ることはできません。

河川環境の変化

調査時に、毎回各調査地点の河川の写真撮影を行っています。

この写真は河川の各地点の定点観測の情報となり、河川の環境がどのように変化してきているかを知る貴重な情報となります。

街の様子でも川の風景でも日常生活の流れの中では、変化していることに気づきにくいものです。

それを過去と現在の写真を比べてみると、川の環境(風景)がどのように変化したのかを知ることができます。

2005年から今日まで金目川の環境に大きな変化を与えてきた原因の一つは、近年の豪雨による金目川水系の洪水の危険度が高まってきたことによる、河川改修工事によるものです。

近年、金目川の流域は都市化の進行や農地の減少などにより保水機能が低下し、水害リスクが高まってきたことから神奈川県では昭和45年12月に都市計画河川に決定し、昭和46年度から、時間雨量50ミリメートルに対応できる河川改修に着手しています。

河川内に自生する樹木や堆砂等についても、河川増水時に川の流れを阻害することから除去や浚渫作業が行われています。

私は浜田川の新大繩橋、中原橋、立堀橋、鈴川の玉川大橋の調査をしてきていますが、ここでも河床は浚渫工事により劇的に変化してきています。



2023年8月 立堀橋より下流側



2013年8月 立堀橋より下流側



玉川橋上流川左岸の伐採された樹木の切り株
2013年の写真には、左岸に大木が写っている



2023年6月立堀橋左岸上流側の植栽



2013年8月 玉川橋より上流側
左岸の伐採前の樹木が確認できる



2023年6月 玉川橋より上流側

今、金目川はどうなっているのか？なぜ川から人が離れてしまったのか？農業は？地域は？金目川流域を構成する空間の構造（自然、社会、文化など）とその空間の持っている履歴（地形・地質の形成過程、気候変化、歴史など）を知ることが重要です。そして、さまざまな情報を集め総合的に解釈していき、少しずつ金目川を理解できるように、私たちは何をしなければならぬのか、また何をしてはならないのかという問いが見えなくなるのではないのでしょうか？

金目川の 環境を考える

土手は草刈りなどの作業が進み、アシサイなどの植栽によりきもちのよい河川の風景になってきています。

2005年と2023年の写真を比較して、劇的に変化していることに気づかれます。魚や野鳥などにとっては2005年のほうが住みやすい環境でしょう。

一方、洪水の防護に対しては、2023年の河川のほうが優れています。どうも環境保全と防災対策は一律背反するようです。

将来にわたりのような金目川の環境を作り上げていくのか、考える材料になるかと思えます。

富士山の

立体地理模型の工作

坂井 昇・岩本勲・佐々木和善

日時 2023年9月15日 午前10時45分

約1時間

場所 平塚市松ヶ丘小学校・調理室

5年生・37名

担当 林貴久先生

実施内容

岩本氏が、立体地理模型について富士山の航空写真で説明しました。

そのあと、坂井氏が前もって製作してある7個の富士山と周辺の山々を

14cm角の土台に接着剤で張り付ける指導をしました。

部品は200mの標高毎に彫刻刀で切り出し張り付けたもので、

箱根山を①とし、時計回りに番号を付け、富士山が⑦で最後として作りました。

貼り付けの手順として、

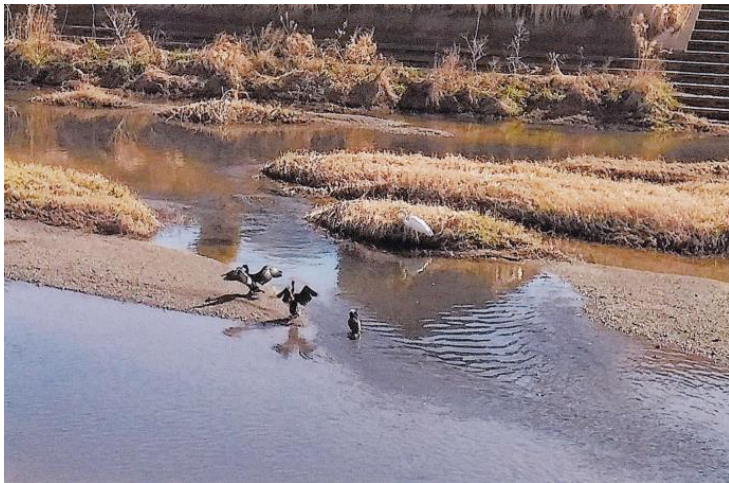
箱根山①の北側部分の位置を確認し、部品の3か所接着剤をつけて、緑色の枠線の線からはみ出さないで張り付けることを説明し、順番毎に同じよう

に最後の富士山を張り付けて、全員完成するまでができました。





出来上がった富士山立体地理模型を横から眺めて大きく感じる体験ができました。
生徒たちは大いに喜んでいました。
生徒からお礼の言葉がありました。
課題
立体地理模型に準備に多大な時間がかかっていた。
費用がかかりすぎて大変です。



柳川 三郎 様

暑中お見舞い申し上げます。
いつも「せせらぎ通信」にお送りいただきありがとうございます。
Vol.65 拝受。読んでいただきありがとうございます。
柳川さんの金目川の水の話、とてもよかったです。日本は物で栄え、心で滅びる同感です。自然の豊か、良好な人間関係は本当に大事です。

岡崎に住む半世紀になります。金目川は住民の憩いの場所、清流は宝です。この春目川と光寺をバトリと川で囲むように、お笑覧下さい。岡崎大橋へ乗船の左岸、土手木が川と伐採、新風大橋付近は水が濁り、河床から土が露出しているのが、右岸が干涸びています。

川の中へ入ると水は白濁し、金目川は川エビはいるのか？(魚バリエーションも思い通り)。災害時の高速警報の時は、持参の身体が有難い。
2023.7.20 飛騨
平川 貞夫

